

課長 補佐

より良い消費税制の 執行をめざして

国税庁 課税部 消費税室
課長補佐

青木 愛

H21.4 国税庁 課税部 課税総括課
H22.7 国税庁 長官官房 企画課
H23.7 関東信越国税局 大宮税務署
法人課税第三部門
H24.7 関東信越国税局 法人課税課 兼
財務省 IMF・世界銀行総会準備事務局
H25.7 留学(ワシントン大学)
H26.7 国税庁 長官官房 人事課 企画係長
H27.8 金融庁 総務企画局 企業開示課
課長補佐
H29.7 名古屋国税局 高山税務署長
H30.7 国税庁 課税部 課税総括課
課長補佐
R1.7 東京国税局 調査第一部
国際情報第一課長
R3.1 育児休業
R4.7 国税庁 人事課 課長補佐
R5.7 現職

課長 補佐

国の礎を支える 責任とやり甲斐

国税庁 課税部 課税総括課
企画調整官

石井 勇司

H21.4 国税庁 長官官房 人事課
H22.7 国税庁 課税部 法人課税課
H23.7 関東信越国税局 川口税務署
個人課税第二部門
H24.7 留学(ワシントン大学)
H25.7 財務省主税局 調査課
外国調査第二係長
H27.7 国税庁 長官官房 総務課
審査企画係長
H28.7 名古屋国税局 課税第三部
法人課税課 課長補佐
H29.2 財務省主税局 参事官室 参事官補佐
R3.7 関東信越国税局 潮来税務署長
R4.7 国税庁 徴収部 徴収課 課長補佐
R5.7 国税庁 課税部 法人課税課
課長補佐
R6.7 現職

人生を通じて何を実現したいか

「正直者が馬鹿を見ない社会を実現する」
どこかの正義派ドラマにありそうなフレーズですが、学生時代、国税庁に官庁訪問していた私は、本気でそう思っていました。あれから15年。留学、出向、現場勤務等、色々な経験をさせて頂きましたが、根本的な部分は今も変わっていません。
消費税を巡っては、近年、輸出免税の仕組みを悪用して不正に還付を受けたり、外国人旅行者向けの免税店制度を悪用したりする事案が後を絶ちません。税関当局と連携して取締りを強化したり、税務調査を行ったり、執行面であらゆる工夫と努力を重ねてきました。ただ、執行だけで乗り越えられない大きな「壁」があるのも事実。正義感だけでは立ち行かないのもまだ現実です。このような場面では、最終兵器…税制改正に向けて制度部局と検討を進めるという対応策もあります。

制度改正の大きな波

免税店制度(輸出物品販売場制度)は現在、リファンド型に改正されようとしています。度重なる不正利用が起こる一方で、訪日旅行者数は過去最高水準に達しており、当制度は観光立国の実現に向けて重要な施策となっています。また、令和3年から免税店制度が完全電子化されたことも後押しとなり、大規模な制度改正が行われることになりました。国税庁消費税室では、財務省主税局(制度部局)、関税局(税関執行

担当)、観光庁、国交省等とともに、より良い制度の実現に向けて、事業者団体、システムベンダーとの協議を重ねてきました。まさに、霞が関の中央省庁で働く醍醐味を感じる大きな仕事です。

働き方をアップデートする

霞が関、現場での勤務においては、それぞれ求められる役割も異なり、その都度、業務に必要な知識の習得は勿論のこと、年数が経過すると責任者として判断を求められることも増え、プレッシャーに負けそうになりながらも、ちょっとずつ成長してきた実感があります。
そんな中、一番の大きな価値観の変容を強いられたのは、出産・育児です。4歳の娘がいますが、自分とは違う人格の人間を育てる(=むしろ、親として子に育ててもらっている)経験は、組織人としても自分の大きな糧になっています。テレワークやフレックス制度など、働き方も大きく変わりました。時間的制約を逆に上手く活かして効率的に業務を進めよう!と意気込みながら、上司、同僚の皆さんのサポートの下で、総合職としての役割を果たせるよう日々奮闘中です。

課税総括課の仕事

私が所属している課税総括課は、課税部全体に関わる共通的な運営方針の策定等を担当しています。例えば、国税庁の任務である適正・公平な課税を実現するために、税務調査等をどのような方針で運営していくべきか。国庫金の詐取とも言える悪質な消費税の不正還付事案にどのように対処していくか。いわゆる富裕層等の租税回避や過度な節税に対してどのような対応を講じるか。こうした税務調査等の実施に必要な情報やデータをどのように収集・分析・活用していくか、必要となる法令上の規定の整備は十分か…などなど。これらは課税総括課の所掌事務の一端にすぎませんが、新たな経済取引の広がり等にも的確に対応しつつ、国税庁の使命・任務を果たすために、40名強のメンバーが日夜一丸となって取り組んでいます。

企画調整官の仕事

こうした課題に的確に対応するため、重要課題に関する国税庁内外の総合調整を行うことが企画調整官の役割です。国税局勤務や税務署長時代に肌で感じた現場感覚や、財務省主税局で経験した制度改正の経験など、これまでに培った経験を総動員して調整に当たるよう心がけていますが、「新たな方針に現場は対応できるか、施策の効果を最大化するためにはどのような工夫が必要か」「全庁的な運営方針に照らして施策のプライオリティが適切に設定されているか」など、様々な視

点から案件を検証しつつ、右に進むか左に進むか、対応方針を短時間で判断しなければいけないこともしばしばで、常に全力投球です。1日として同じ日はなく、気が抜けない時間が続きますが、総合職として刺激とやり甲斐を感じられる毎日です。

この国を、支える。

私が国税庁の官庁訪問をしていた頃、「霞ヶ関で行う政策の企画立案を『絵に描いた餅』にしてはいけない」というお話をよく聞きました。実際に国税庁で仕事をしてみると、こうした問題意識が広く共有されていると感じます。本庁勤務や他省庁出向のほか、税務署の調査官や局・署の幹部など現場を肌で感じて問題意識を深め、その問題意識を本庁での企画立案に活かすことができるという点は、国税庁総合職の大きな魅力ではないかと感じます。

税は国家の基盤です。「この国の根幹を支える」という変わらない使命を果たすために、現場との一体感を持ちながら新たな政策課題への処方箋を企画立案する。そんな組織のリーダーを目指して挑戦したいという皆さんの入庁を楽しみにお待ちしております。